

# 国鉄分割・民営化強行のための “人材活用センター”を調査

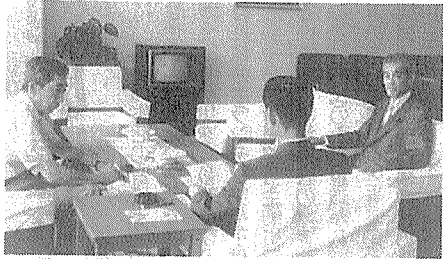
国鉄当局は分割民営化を強行するため、国労組合員・全動労組合員に集中して、人材活用センターへの配転を指示してきました。明らかに不当労働行為であり、共産党・革新共同府会議員団では、共産党国会議員団とともに各現場へ調査に入りました。

八月二十八日には本野哲郎府議、塩見敏治府議予定候補が神谷信之助参議院議員とともに福知山鉄道局機関区へ調査に入りました。ほとんどの国労組合員であり、「人材活用」と言いながら、機関区の労働者がレールを切断して文鎮つくりを強制されている「人材浪費センター」であることが調査で明らかになりました。

八月二十九日には高橋昭三府議が、神谷参議員などとともに梅小路貨物駅の「人材活用センター」に調査に入りました。全員が国労組合員であり、京都支部副委員長、梅小路運輸分会の主要役員などを網羅しており、朝、助役が朝礼に入り「本日一日頑張るよつ」と述べただけで、具体的な業務指示もせず、そとへ逃げ去る始末

です。仕事を与えず「人活センター」に入れ、それによる人員不足を超勤、徹夜勤務の業務命令の濫発でカバーしようとし、断った労働者を直ちに六月月の停職処分にするなど、組合潰しの不当労働行為の実態が浮きぼりになっていました。調査団は、不当労働行為と闘う労働者、労働組合を激励してまわりました。

同日、向日町運輸所分会の「人活センター」抗議決起集会へは野村稔府議が参加、神谷議員とともに激励の挨拶を行いました。



同和行政是正について申し入れる  
西山秀尚・宮内泰之府議

# 同和行政是正に関する申し入れ

日本共産党・革新共同京都府議会議員団

一九八六年八月二十一日 京都府知事 荒巻禎一殿

わが議員団は、本府の同和行政が林田府政発足以来大きく歪められ、不正なものとして、これを重視し、これが同和問題解決という本来の目的に逆行するものであることを指摘し、再三にわたってその是正を要求してきた。それは部落解放基本法制定要求京都実行委員会への本府の参加問題をはじめ、部落解放同盟に対する同和行政の「窓口一本化」容認、経営指導員の「解同」一元支配問題、「解同」の指導する部落史編纂事業や「啓発映画」制作に対する全面的助成問題、大学奨学金の法に反する事実上の給付継続、高校入試対策特訓用臨時講師採用問題その他行政の各分野にわたっている。これに対して府理事者はその一部について手直しを行ったものの、基本的には行政姿勢を変えようとしてこなかった。

この状態のなかで林田前知事の肝煎りで育成してきた全日本同和会京都府・市連合会幹部による組織ぐるみの巨額脱税請負事件や、「解同」幹部による不法行為が発生、えせ同和団体が横行し、「解同」による確認・糾弾などが相次いでいることは重大である。

去る八月五日、総務庁の地域改善対策協議会基本問題検討部会が同和問題解決の方策についての検討結果を報告、その内容が公表されたが、この報告書もまた同対審報告当時には触れられなかった同和問題解決の新たな阻害要因として、行政の主体性の欠如と、同和を口実とした利権あさりなどのえせ同和

行為の横行を指摘している。さらにこの報告書は「糾弾権」の存在を否定するなど、無法な糾弾にまっぴりした態度をとるとともに、行政の主体性の確立と住民自立の視点を強調し、個人給付的施策の資格の厳正、所得制限導入その他を提起し、差別に対する法規制は政策論からも、法律論からも問題があり賛成できないとし、問題点を解明し明確に否定している。報告書のこれらの指摘は、部落の変化の状況と正しい部落解放運動のたたかいと主張を反映した積極的な指摘であり、わが議員団が本府の同和行政の重大な問題点として是正を要求してきた主張の正しさをより広い立場から裏書したものである。

今日、京都市の不正・乱脈な同和行政が生んだ公金詐取、不正流用が一部明るみに出はじめているが、本府においても今日の行政姿勢に固執し、不正な同和行政を続けるならば早晩京都市の轍を踏むことになることは明らかである。

わが議員団は同和問題の解決を促すとともに、本府が京都市の轍を踏み府民の行政への不信を生むような事態を招かないために、この際知事が地対協議会基本問題検討部会の今次報告書とわが議員団のこれまでの主張にもとづく同和行政の洗いなおしを真剣に行い是正をはかること、まず第一に荒巻知事が部落解放基本法制定要求京都実行委員会の名誉会長を辞めるとともに府として一切の関係を断ち、行政の主体性の確立に努められるよう強く申し入れるものである。